

# 第6学年社会科学学習指導案

単元名 日本のあゆみ

小単元名 650年の時を超えて受け継がれる室町文化～伝統を守り、伝える人々～（12時間）

## 1 子ども達は

○ 本学年の子ども達は、これまで「米作りのはじまりと国の統一」「貴族の政治とくらし」の学習を通して、一枚の写真から当時を生きた人々の生活の様子や生き方を予想したり、また、予想したことを年表や文章資料と関連づけて歴史事象の意味を考えたりする活動をおこなってきた。

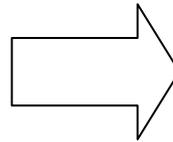
また、歴史上の人物に着目し、人物の生きた時代の背景や、当時の人々のものの見方や考えから、人物がおこなった行為の歴史的意味を考えたりする活動をおこなってきた。

これらの学習を通して、資料から必要な情報を読み取ったり、複数の資料を関連付けて読み取ったりすることができるようになってきた。また、調べ学習をする中で、歴史上の人物の活躍の様子やエピソードと出会い、歴史に関する興味・関心が高まってきた。そして、学習問題に対する自分の考えをもち、自分の考えの根拠を明らかにしながら、調べたことや考えたことを表現できるようになってきた。

○ 本学年の子ども達は、これまでの学習を通して、歴史事象の意味や歴史上の人物の行為の歴史的意味を考える学習をしてきた。その中で、学習問題に対する自分の考えをもち、考えの根拠となる事実を提示しながら、友達と考えを交流することができるようになってきた。また、友達と交流する中で、自分の考えに友達の考えを付加したり、自分の考えを修正したりすることで、不十分な部分を見いだしたり、考えを強化することができるようになってきた。

しかし、自分の考えだけにこだわり、一面的なものの見方だけで考えを構成したり、友達の考えのよさを受け入れたりすることができない子どももいる。

そこで、本小単元を通して、歴史的な事象を、様々な立場やものの見方で多面的に捉えることで、お互いの考えの納得できる部分から友達の考えのよさを見出し、課題解決に向けて、よりよい考えに高めることができるようになってほしい。



## 2 教材は

室町時代に生まれた文化について学習する中で、能楽を教材として取り上げることには、次のような価値がある。

○ ○○校区には、能楽師として活動を続けている方が住んでいる。その方は、幼い頃から、能楽師としての道を歩まれ、現在に至るまでに、様々な苦労や困難を乗り越えてこられた経験をもたれており、能を広めるために外国で能の舞台を行ったり、大濠能楽堂で数々の能の舞台に出演されたりして、能楽のすばらしさを多くの人に伝えている。

また、活動を続ける中で、能の楽しさや奥深さをもっと多くの人に知って欲しいという願いをもち、どうすればその願いを叶えることができるのか、日々悩み葛藤しながら生活されている。

そこで、能楽師さんの生き方を通じて、室町文化を学習することは、伝統や文化を守り続けるために人々がどのような工夫や努力をしているのかを理解する上で有効であり、また、そのような人々の存在があってこそ、650年もの長い時間を超えて文化が継承されていくことを理解する上で有効である。（感動性）

○ 校区に住まれる能楽師さんは能を多くの人々に知ってもらい、多くの人が日本の文化を知ることによって自分の住んでいる国に誇りをもち、またそのよさを知ることによって繋がると考えられている。しかし、能は誰にとっても馴染みの深いものではない。

つまり、現在の世の中の人々に昔からある能の伝統を伝えるためには、能という伝統の普遍的な部分と、新しい時代に応じて変わらなければならない部分とを、うまく調和させながら、後世に伝えていくことが必要である。

そのことを考えさせることは、時代に応じた形に伝え方を工夫しながら伝統を守ろうとしている能楽師さんの立場と、昔ながらの伝統を変えずに伝統を守り続けていくことが大切だと考える人々の立場から、伝統を守り繋げるということの難しさやそこに携わる人々の工夫を多面的に考える上で意義深い。（多面性）

### 3 交流活動の工夫は

本小単元では、次のような交渉する力を育んでいく。

こんな交渉する力を身に付ける	
【であう段階】	○ 室町に生まれた文化と、現在の自分の生活を比較し、共通点や差異点を見出し、見出したことの根拠を明らかにしながら学習問題をつくりだすことができる。
【はたらきかける段階】	○ なぜ650年もの長い間、室町の文化が受け継がれてきたのかについて、自分の考えの根拠となる資料を選択し友達と考えを交流するとともに、能楽師さんの能に対する思いや願いを知ること、新たな学習問題に対する自分の考えを作り出すことができる。
【たかめる段階】	○ 文化を継承するためには、その文化が生まれた時代の伝統的な本来の形を守り続けるだけではなく、時代の特徴に合わせて、新しい形でより多くの人にそのよさを分かってもらうための工夫も必要であるという合意点を見つけることができる。

このような交渉する力を育むために、次のような場を設定し、次のような学習材を使って交流活動を工夫していく。

場	学習材
【であう段階】 ○ 室町の文化と現在の自分の生活を比較する場 ○ 室町の文化について調べたことを表現物にまとめる場 ○ 学習問題1についての予想を交流する場 ○ 能楽師さんと出会う場①	○ 金閣・銀閣の家屋のつくりと現在の家屋のつくりが比較できる資料や現在も親しまれている茶の湯や生け花の様子が分かる写真 ○ 年表や資料集 ○ 学習プリント ○ 校区に住む能楽師さん
【はたらきかける段階】 ○ 学習問題1についての自分の考えの根拠を見出す場 ○ 学習問題1についての考えが同質のグループで中間交流をする場 ○ 学習問題1の答えについて全体で交流する場	○ 室町の文化についての資料 ○ 室町時代の時代背景の分かる資料 ○ 学習プリント
【たかめる段階】 ○ 能楽師さんと出会う場② ○ 学習問題2について自分の考えをつくる場 ○ 学習問題2の答えについて全体交流を行い、お互いの考えに合意点を見出す場	○ これまでの学習の足跡が分かる掲示物や表現物 ○ 校区に住む能楽師さん ○ 学習プリント

### 4 めざす子どもの姿は

- 現在の生活の中に生きている室町時代に生まれた文化に関心を持ち、当時の文化がどのように現在に受け継がれているのかについて意欲的に調べることを通して、日本の文化を大切にしようとする態度を育てる。 【関心・意欲・態度】
- 室町時代には貴族中心の文化から武士中心の文化が生まれ、その文化と現在の生活の繋がりを考えることができるとともに、これからも受け継いでいくために必要なことを多面的に考えることができる。 【思考・判断】
- 室町時代に生まれた文化について、年表や各種の資料を活用し、それらの資料を関連付けながら分かったことや考えたことを分かりやすく表現することができる。 【資料活用・表現】
- 室町時代に生まれた文化の多くが、今も受け継がれていることが分かり、室町時代の文化の特色を理解することができる。 【知識・理解】

5 学習計画（12時間）

段階	学 習 活 動 と 主 な 内 容	※教師の支援	配時
<p>であう</p> <p>はたらきかける</p>	<p>1 室町の文化と現在の自分の生活を比較し、分かったことや疑問に思ったことから学習問題1をつくり答えを予想する。</p> <p>(1) 金閣や銀閣などの建造物の特徴と現在の家屋の特徴を調べたり、茶道や華道、水墨画とはどのようなものかを調べたりして、室町時代の文化の多くが今も受け継がれていることを知る。</p> <p>(2) 校区に住む能楽師さんと出会い、能の歴史や能に対する思いを知り、学習問題1をつくる。</p> <p><b>学習問題1 なぜ、650年もの長い間、能は受け継がれてきたのだろうか。</b></p> <p>(3) 学習問題1の予想を出し合い、追究の計画を立てる。 ○ 受け継ぐ人々 ○ 保護する人々 ○ 受け入れた人々</p> <p>2 学習問題1に対する自分の考えをつくる。</p> <p>(1) 計画に沿って、追究する。</p> <p>(2) 自分の考えの根拠となる事実を年表や各種の資料を活用して見出し、考えの違う友達に分かりやすいよう工夫した表現物をつくる。</p> <p>(3) 自分の考えと同質の考えをもった友達と中間交流をし、自分の考えに友達の考えを付加したり、修正したりしながら、考えを再構成する。</p> <p>3 学習問題1の答えを話し合う。</p> <p>(1) 学習問題1に対する自分の考えを、根拠を明らかにしながら友達に伝え、考えの違う友達との合意点を見出し、学習問題1の答えを話し合う。</p> <p><b>能が650年間続いてきたのは、時代が変化していく中で、町や村の人々に受け入れられ、また将軍や武家社会に保護され、さらに、継承する人々がいたからである。</b></p> <p>4 学習問題2をつくって自分の考えをもち、話し合う中で、考えの違う友達との共通点を見出し、学習問題2の答えを合意形成する。</p> <p>(1) 学習問題2をつくり、予想を話し合い、資料を調べて自分の考えをつくる。</p> <p><b>学習問題2 能の文化がこれから先も受け継がれていく為に必要なだろうか。</b></p> <p>(2) 学習問題2に対する自分の考えを全体交流し、伝統を守るために必要なことを考える。</p> <p>○鑑賞者の立場 ○演技者の立場</p> <p><b>これから必要な工夫・努力 ← → これから必要な工夫・努力</b></p> <p><b>どちらも大切だけど・・・</b></p> <p><b>これからも能が受け継がれていくには、鑑賞者である私たちや演技者が能を大切にしようとする気持ち（誇り）をもち、これからも大切にしていこう。</b></p>	<p>※ 室町の文化が現在に受け継がれていることを理解できるように、調べる事柄を種類別に整理してグループ分けを行う。</p> <p>※ それぞれの文化のよさを見出すことができるように、他教科で体験活動を取り入れる。</p> <p>※ 学習問題に対しての自分の考えの根拠を見つけることができるように、個別に相談に応じアドバイスをする。</p> <p>※ 自分の考えの不十分なところを見出し考えを付加・修正できるように、同じ考えのグループで中間交流をおこなう。</p> <p>※ 学習問題1を追究する中で醸成された共感的理解に能楽師さんの葛藤を対比させることで、受け継がれてほしいという願いをもたせるようにする。</p> <p>※ 考えの違いから、お互いの考えの共通点を見つけたり、納得できる点を見つけたりしながらよりよい考えに高められるようにする。</p> <p>※ 自分の考えを見直すことができるように能楽師さんの話を聞く場面を設ける。</p>	<p>4</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>①本時 ○組 3</p> <p>①</p> <p>①</p> <p>① 1</p> <p>①本時 ○組</p> <p>4</p> <p>③</p>
<p>たかめる</p>	<p>①本時 ○組</p>	<p>①本時 ○組</p>	<p>①本時 ○組</p>

6 本時 「学習問題 1 に対する自分の予想について、根拠を明らかにしながら交流する場面」 (4 / 1 2)

指導者 ○○ ○○ 場所 6年○組教室

7 本時の目標

- 学習問題 1 に対して、能楽師さんの話や自分が調べたことを根拠とした予想をもつことができる。
- 650年間も能が受け継がれた理由について、自分の考えと友達との考えとの違いを明らかにすることができる。

8 本時展開

学習活動と内容 (○内容 ※具体的な支援・留意点)

1 本時のめあてを確認し、前時までの自分の学習したことをふりかえる。

(1) 本時のめあてを確認する。

めあて

なぜ650年間もの長い間、能が受け継がれてきたのか、自分の予想を話し合おう。

(2) 前時までの学習プリントを見直し、自分の考えと根拠となる事実を確かめる。

2 学習問題 1 について、自分の予想をもとに話し合う。

(1) それぞれ調べた文化や能楽師さんの話をもとに、学習問題 1 に対する自分の予想を話し合う。

(予想される考え)

○ 能楽師さんのように受け継ぐ人達がいたから。

○ 多くの人に受け入れられたから。

○ 時代に合った形に変えていったから。

※他の文化(華道・茶道)を振り返らせたり、能楽師さんの話(苦勞・努力)を想起させたりしながら板書する。

(2) 交流したことをもとに、追究の視点をつくる。

○ 追究の視点…受け継ぐ人々(能楽師)

保護する人々(武家)

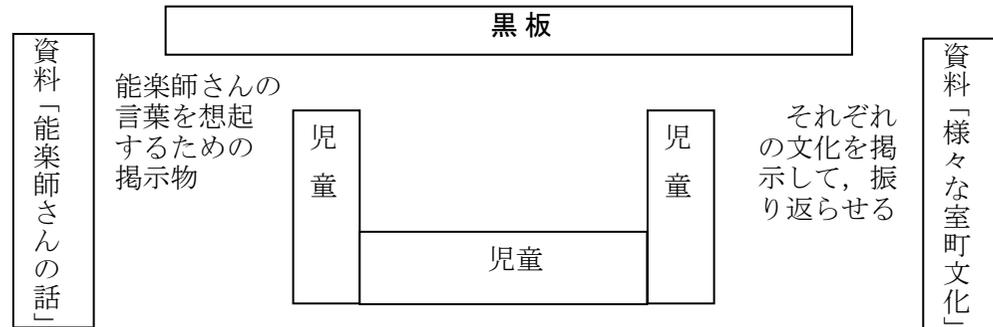
受け入れた人々(町や村の人々)

※次時につなぐために、どんな根拠が必要なのか、どんな資料があるといいのか確かめさせる。

学習材：○金閣・銀閣の家屋のつくりと現代の家屋のつくりが比較できる資料や今でも親しまれている茶の湯や生け花の写真  
○年表や資料集  
○学習プリント(視点を設定した評価カード)  
○能楽師さんの話

場：学習問題 1 について予想したことを友達と交流する場

○形態：個人発表



3 今日の学習を振り返り、学習前の自分と学習後の自分を比べて変わったところ、次時のめあてを書く。

※評価項目を入れた評価カードを用い、自分の変容や伸びを自己評価させる。

6 本時 「学習問題 1 の答えについての考えについて、根拠を明らかにしながら交流する場面」(8 / 12)

指導者 ○○ ○○ 場 所 6年○組教室

7 本時の目標

- 室町文化の能が続いてきた理由として、時代背景からの文化の特質や、長年文化を継承し続けた人々がいたことを根拠に挙げることができる。
- 自分の考えの根拠を明らかにしながら、能が続いた理由について、話し合いによって合意点を見いだすことができる。

8 本時展開

学習活動と内容 (○内容 ※具体的な支援・留意点)

1 本時のめあてを確認し、前時までの自分の学習したことをふりかえる。

(1) 本時のめあてを確認する。

めあて

なぜ 600 年もの間、能が受けつがれてきたのかを交流し、学習問題 1 の答えを話し合おう。

(2) 前時までに集めた資料を見直し、自分の考えの根拠となる事実を確かめる。

2 学習問題 1 の答えを話し合う。

○ 能が 600 年間受け継がれてきた理由について、自分の考えを根拠をもとに話し合う。

・奈良時代頃大陸から伝わり、室町時代には貴族や武士だけではなく、町や村の人々が、参加して楽しむ文化が生まれた。農民が行っていた素朴な踊りは能に発展した。

→町や村の人々に受け入れられたから

・当時の将軍足利義満が観阿弥、世阿弥の舞台を鑑賞し、その芸に感銘を受けて保護した。

→将軍や武家社会に保護されたから

・「能」は、上流階級の人々に楽しまれてきた文化であるが、今でも能楽堂などで公演されている。

→継承する人々がいたから

まとめ

能が 600 年間続いてきたのは、時代が変化していく中で、町や村の人々に受け入れられ、また将軍や武家社会に保護され、さらに、継承する人々がいたからである。

学習材：○ 室町文化、能について示した掲示物や写真  
○ 時代背景の分かる年表  
○ 学習プリントと子どもが作成した表現物

場：○ 学習問題 1 の答えについて、自分と友だちの考えを交流し、友だちの考えをとり入れる全体の場合。

○ 形態：個人発表

子どもがつくった資料

児童

黒板

児童

児童

子どもがつくった資料

6 本時「根拠をもとに友だちと自分の考えを交流し、よりよい考えに高める場面」(12/12)

指導者 ○○ ○○ 場所 6年○組教室

7 本時の目標

- 650年以上の歴史をもつ能の文化を、今後も継承していくために必要なことを考え、我が国の伝統や文化を大切にしようとする態度を育てる。
  - 自分の考えと友達のことを比較しながら、お互いが納得できる考えを見出すことができる。
- 8 本時展開

学習活動と内容 (○内容 ※具体的な支援・留意点)

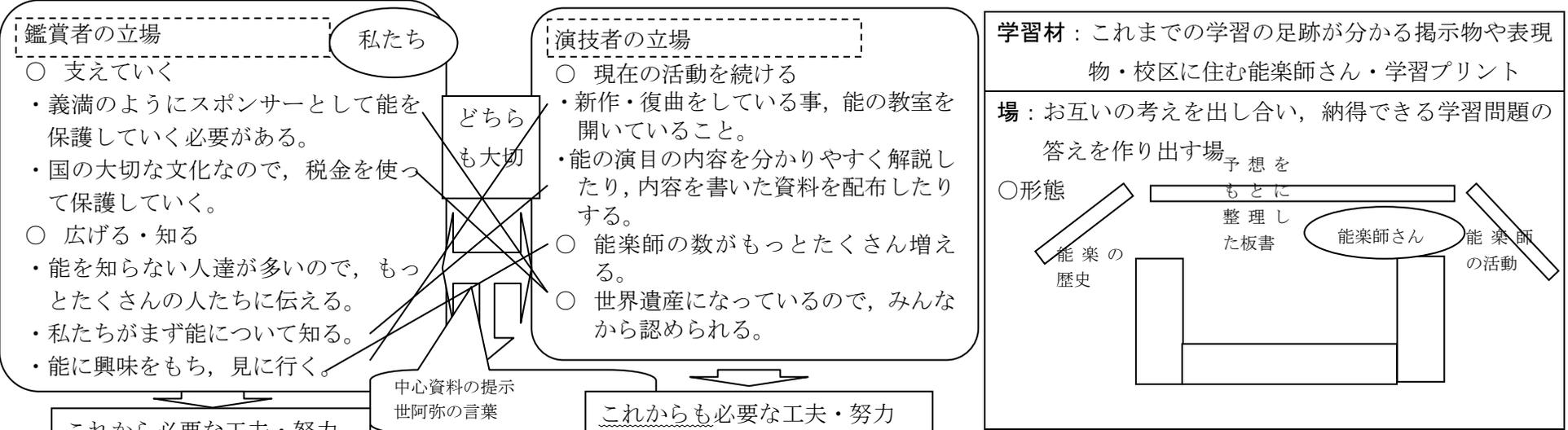
1 本時のめあてを確認する, 前時までの学習をふりかえる。

(1) 本時のめあてを確認する。

めあて 自分の考えと友達のことを交流し, 学習問題の答えを見つけよう。

(2) 前時までの学習プリントを見直して, 自分の考えを確かめさせる。

2 どうしたらこれからも能が受け継がれていくかについて, 根拠を提示しながら話し合う。



※ 両者の立場が, 明確になるよう, 発表を板書の中で整理していく。

これからの能が受け継がれていくには, 鑑賞者である私たちや演技者が能を大切にしようとする気持ち(誇り)をもち, これからも大切に続けていく。

3 「今日の学習で」で学習を振り返り, 次時の学習のめあてを書く。